

# 南阿蘇村 復興むらづくりだより

～あれから6年  
6集落のいまを刻む～



地震被害の大きかった各地区では、住民の皆さんが復興とさらに地域をより良くしていくための活動に奮闘されています。「南阿蘇村復興むらづくりだより」の中で6地区のいまと「集落復興支援事業」の活動などについて紹介してきました。今回は6地区紹介の最終回となります。

## ■袴野区のいま

主な地震被害…河川・橋梁・農地・神社など

集落住宅被害…地震前：30世帯→地震後：全半壊25世帯→現在：16世帯（令和4年10月現在）

袴野区は、主に農業（米）と畜産（牛）が営まれていた集落で、200年以上続く地区内の温泉宿は南阿蘇村の歴史文化と観光の要となっており、湯治や地域の夏祭りなどもおこなわれてきました。

震災で壊滅的な被害を受けた同地区ですが、集落復興支援事業で「袴野区ユズ・カボス有効活用事業」（袴野地区復興むらづくり協議会）として、令和2年から集落内の各家庭に植えてあるユズ・カボスを有効利用して、地区の公民館で柚子胡椒などを作りはじめました。この取り組みには、熊本地震でボランティア活動に関わった団体などが今でも毎年参加。地域住民との交流や困りごとのサポートにも繋がっています。また、集落で自然に実り、収穫できる資源を活かし保存食にする知恵は、昔からの伝統文化であり環境や自給率の課題に直面している現代でのSDGsの取り組みの一つでもあり、改めて村内各地区でも見直すきっかけになればと思います。

また、「ヤギで除草・獣害対策」（はかまの会）では、令和元年から集落内でヤギ2頭の飼育を開始。震災で過疎に拍車のかかった地域の除草や獣害対策に一役かってもらう計画は、同じ課題に直面する他地区の住民からも関心が高く、昔の家庭でヤギが飼われていた生活文化の理解にも繋がりました。

このように、袴野地区の取り組みでは、小さな集落であるからこそ、地域の住民で以前の暮らしを見直し、知恵を取り戻す活動となり、今後の南阿蘇村全体に提案できる内容となりました。

そして、熊本地震とその後の大雨で甚大な被害があった温泉地は、コロナ禍の苦境にも耐えながら、現在では紅葉の彩とともに多くの人びとが訪れています。この姿や地域の取り組みに「集落にこそ、持続可能な未来がある」という言葉を改めて感じました。この言葉が地方集落の指針となることを願います。

【11月6日（日）今年もユズ胡椒・ゆずジャム作りを開催しました♪】

袴野区公民館にて、集落内などのユズを使ったユズ胡椒とゆずジャム作り。久しぶりの活動におしゃべりが弾みます♪



①遠くからも見える袴野地区の大銀杏 ②集落内のユズを収穫・活用 ③紅葉が彩づく「金龍の滝」周辺